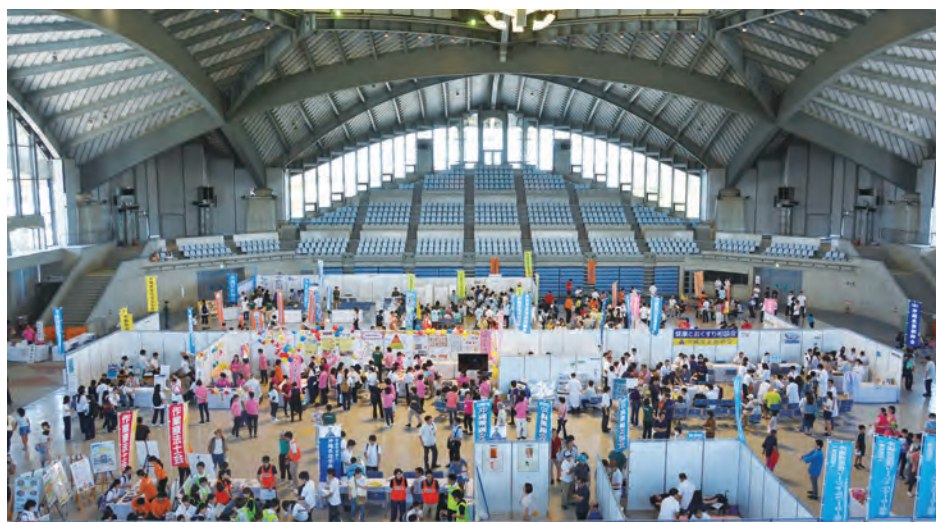


なごみ会主催第8回県民健康フェア

理事 白井 和美



8月19日（日）12時から16時まで、沖縄コンベンションセンター展示場において、県下の医療保健関連17団体が参加する沖縄県医療保健連合（通称、なごみ会）が主催し、公益財団法人 沖縄県保健医療福祉事業団にご共催頂き、第8回県民健康フェアが開催された。

まず、主催者挨拶が、沖縄県医療保健連合安里哲好会長から概ね次の通り述べられた。

安里哲好 沖縄県医療保険連合会長
（沖縄県医師会）



当フェアは県下の保健医療関係17団体で構成する沖縄県医療保健連合（通称：なごみ会）が「健康おきなわ21」の基本理念「県民が健康長寿を維持継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である」に基づき、各団体の専門とする医療、健康に関する催しを合同で行う県内最大のイベントである。

さて、すでに皆様ご周知のとおり、厚労省より昨年末に公表された都道府県別平均寿命において、沖縄県は女性が3位から7位に、男性が30位から36位となり、「26ショック」、「330ショック」から更に順位を下げ、本県が掲げる2040年の健康長寿復活に向け、日頃から健康づくりに対する意識改革を行っていくことは、本県の重要課題となっている。

特に、働き盛り世代の65歳未満の健康状態はとても厳しい現状にあり、運動不足、肥満、多量飲酒など不健全な生活の積み重ねが急性心筋梗塞や脳血管疾患を招来しており、特にこれから高血圧関連疾患の改善に向けた対策が急務となっている。

今回は「あなたの健康はみんなの幸せ - 自分の「今」をチェックしよう -」をテーマに掲げ、当健康フェアを機に県民の皆さんお一人おひとりがご自身の健康について深く考えて頂くべく様々なブースを展開する。各種健康相談や保健指導、骨密度測定、様々な体験コーナーを行う他、お楽しみイベントとしてスタンプラリー抽

選会もあり、お楽しみいただきながら、ご家族揃って健康づくりに取り組める内容となっているので、皆様方の生活習慣病の予防、健康管理等にお役立ていただければ幸いです。

我々「なごみ会」としても、今後とも県民の保健・医療・福祉を全力でサポートして参る所存でありますので、全県民が健康な生活を送れるよう、健康長寿県復活に向け県民一丸となって頑張ろう。

次いで、沖縄県保健医療部長 砂川靖様より、来賓あいさつが以下のように述べられた。

砂川 靖 沖縄県保健医療部長



このたび、「なごみ会」を構成する 17 団体が連携し、健康寿命の延伸を目的に「県民健康フェア」が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

本日の「県民健康フェア」においては、各団体の専門性に応じた、様々な健康イベントが用意されているとお聞きしている。本日の「県民健康フェア」は、今後の生活習慣の改善に取り組む良い機会になるものと期待している。

さて、昨年 12 月に公表された沖縄県の平均寿命は、男性が 80.27 年、女性が 87.44 年であり、5 年前より男性は 0.87 年、女性は 0.42 年延伸したが、しかしながら全国順位では男性が 30 位から 36 位へ、女性が 3 位から 7 位へと順位を下げっており、更なる対策が必要であると考えている。

県では、健康長寿復活に向け、2040 年までに男女とも平均寿命日本一を目指した健康づくりの取組を強化し、アルコール対策やがん検診に関する広報活動、小・中学校における食育の副読本の活用、企業が取り組む健康づくりへの支援などを行うと共に、医療、行政、経済団体が構成する「健康長寿おきなわ復活県民会議」を設置し、官民が一体となった施策を推進しているところである。

また、地域や職場における健康づくりの実践を促すことを目的に「沖縄県健康づくり表彰制度」を開始したほか、健康づくりボランティアの養成

及び活動に対する支援など、地域における健康づくり活動の活性化に努めることで、平均寿命及び健康寿命の延伸に向けて取り組んでいる。

ご来場の皆様には、この機会を通し、今一度、自らの生活習慣を顧みていただき、健康づくりの実践、並びに、家族、友人とともに健康づくりの運動の輪を広げていただくことをお願いしたい。

その後、日本健康運動指導士会沖縄県支部による健康体操（Let's プチ体操）を行い、フェアがスタートした。前回から行われているこの体操は、スタッフをはじめ来場者も多く参加し、会場の一体感を高める大変重要なイベントとなっている。

当日の天気予報は、晴れ。雲もない快晴で、前年の天候不良とは打って変わった好天候での開催であった。しかし、天候の良さがまさかの悪影響を来したのか、ぐんぐんと上昇した気温の影響もあり、県民の来場はあまり伸びず、入場者は例年より少なめの約 1,000 名であった。また、他のイベントからの誘客も期待されたが、今回は効果が見られなかった。そのため、昨年目立ち始めた家族連れの姿も今年は少し少なかったように感じた。

本フェアでは、なごみ会に参加するすべての団体がブースを構え、それぞれの職種に親しんでもらおうと、関連するポスターを展示し、各種体験コーナーなどが設置された。コンピューター歯科健診、口唇力測定、フッ素洗口体験、健康チェックとおくすり相談、調剤体験と楽しい実験、キッズナース体験、手洗い体験、フードモデルを活用した食事バランスチェック（SAT システム）、血液細胞などを観察するミクロの世界体験、口の中の細菌検査体験、テーピング実技、簡単な鍼灸体験、社会福祉士クイズ、幻覚バーチャル体験、各種体力測定などこれまで以上にバラエティーに富み、楽しみながら各職種に関連した知識を啓発する体験重視型のフェアとなってきている。

県医師会ブースでは、おきなわ津梁ネットワークに関する説明や、医師による健康相談、心肺蘇生法の講習を行った。隣接ブースの臨床

検査技師会が施行した頸動脈エコー検査の有所見者を当会へ紹介し医師面談に繋げ、40名の面談を行った。医師面談には、石川清和先生（今帰仁診療所）、当会常任理事 田名毅先生（首里城下町クリニック第一）、当会理事 比嘉靖先生（東部クリニック）がご協力下さり、3名体制で臨んだ。面談された方々は先生方の丁寧な説明に感銘を受けておられるようであった。

心肺蘇生講習では、出口宝先生（もとぶ野毛病院）、早川典江理学療法士（県立南部医療センター・こども医療センター）、南西医療器の技師の方々がご協力くださった。ハートシムというコンピューター内蔵のシミュレーション人形を使用し、突然の意識消失時の心肺蘇生の基本を、AEDの使用方法の実践などを交え説明され、大変な好評を博した。今年は、人工呼吸用シミュレーター人形も準備され、適切な人工呼吸についても講習が行われた。受講者は90名に上り、

この多人数にもかかわらず丁寧なご対応を頂いた関係各位には心から御礼申し上げます。

事務局も例年同様の気配りで、要所をしっかりと抑えた運営力を発揮し、フェアは成功裏に終了した。

今回も、多くの皆様のご協力で無事フェアを終えることができた。関係者各位、並びに当日ご協力いただいた皆様、特に医師面談・心肺蘇生講習にご協力いただいた、石川先生、出口先生、田名常任理事、比嘉理事、には心より御礼申し上げます。

最後に、今回も協賛広告並びに協賛金、ブース出展、協賛品提供を会員並びに関係団体、各企業に募集し、多くのご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。来年度のフェアにつきましても皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

プログラム

ステージイベント

開会式	内 容
12:00~12:10	主催者挨拶：安里 哲好（沖縄県医師会会長・沖縄県医療保健連合会長・沖縄県保健医療福祉事業団理事長） 来賓祝辞：砂川 靖（沖縄県保健医療部長）
12:15~12:30	沖縄Let'sブチ体操（日本健康運動指導士会沖縄県支部）

ブースイベント

団体名	内 容
① 沖縄県医師会	①おきなわ津梁ネットワークを活用した保健指導（健康保険証をご持参下さい） ②AED・心肺蘇生体験（人数制限有） ③パネル展示（#8000、#7001）・次世代の健康づくり副読本等
② 沖縄県歯科医師会	①コンピュータ歯科健診：デンタルドックDoチェックによる保健相談 ②あなたの歯の力は？（口唇力測定） ③在宅歯科・障害者歯科診療相談コーナー ④お口の細菌観察コーナー
③ 沖縄県歯科衛生士会	①口腔ケア相談コーナー（乳幼児期～老年期） ②歯科用グッズ展示・パネル展示 ③知って得する妊婦のむし歯予防、歯周病予防 ④フッ素洗口体験 ⑤むし歯リスク検査
④ 沖縄県歯科技工士会	①かぶせもの、入れ歯などの補綴物相談コーナー
⑤ 沖縄県薬剤師会	①かかりつけ薬剤師・健康サポート薬局について ②健康チェックとおくすり相談 ③（こども向け）調剤体験と楽しい実験 ④薬剤師の仕事について
⑥ 沖縄県看護協会	①健康チェック ②適正飲酒について ③キッズナース体験（白衣体験） ④手洗い体験 ⑤認知症予防コグニサイズ ⑥禁煙について
⑦ 沖縄県栄養士会	①フードモデルを活用した、パソコンによる食事バランスチェック（SATシステム） ②栄養相談 ③パネル展示

ブースイベント

団体名	内 容
⑧ 沖縄県臨床検査技師会	①頸動脈エコー検査（先着100名） ②臨床検査展 ・ミクロの世界体験（血液細胞・がん細胞） ・口の中の細菌検査体験（グラム染色）、血液型について
⑨ 沖縄県放射線技師会	①骨密度測定検診（無料） ②放射線被ばく・医療における各種検査に関する相談
⑩ 沖縄県理学療法士協会	①予防について ②足の機能について ③パネル展示、相談コーナー
⑪ 沖縄県作業療法士会	①パネル展示 ②自助具展示および体験コーナー ③なんでも相談コーナー
⑫ 沖縄県言語聴覚士会	①相談：飲み込み、聞こえ、言葉、子どもの発達・進路に関して ②展示：パネル、嚥下食・口腔ケアグッズ等 ③体験：聴力検査
⑬ 沖縄県柔道整復師会	①パネル展示（ボランティア活動） ②テーピング実技（メディカルテーピング・スポーツテーピング） ③整（接）骨のかかり方相談コーナー
⑭ 沖縄県鍼灸師会	①鍼灸治療の効果をわかりやすく示したパネル展示 ②鍼灸治療を知ってもらうための簡単な鍼灸体験
⑮ 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会	①医療ソーシャルワーカーの職能紹介 ②社会福祉士クイズ
⑯ 沖縄県精神保健福祉士協会	①精神保健福祉士の職能紹介 ②精神保健福祉士及び医療に関する相談 ③幻覚のバーチャル体験 ④ストレスチェック
⑰ 日本健康運動指導士会 沖縄県支部	①体力測定（握力・柔軟性・俊敏性・10m速歩・バランス） ②体力測定結果に基づいた運動相談 ③沖縄Let'sブチ体操と健康体操の体験

各ブースの催し物・会場風景



気道確保の説明（沖縄県医師会）



薬剤師の仕事について（沖縄県薬剤師会）



AED・心肺蘇生体験



認知症予防コグニサイズ（沖縄県看護協会）



おきなわ津梁ネットワークを活用した保健指導



体力測定（日本健康運動指導士会沖縄県支部）



フードモデルを活用したパソコンによる食事バランスチェック（沖縄県栄養士会）



沖縄 Let's プチ体操と健康体操体験

平成 30 年度沖縄県総合防災実働訓練

災害医療委員会委員長 沖縄県災害医療コーディネーター 出口 宝



県本部緊急会議（予定外で本部長である副知事から関係団体代表者が集められた）

平成 30 年度沖縄県総合防災訓練における実働訓練が、9 月 1 日に開催されました。今年は沖縄県及び南部圏域 14 市町村が主催となり、震源を本島南東沖 100km 深さ 2km とするマグニチュード 7.9 の地震が発生、本島南部で最大震度 6 強の揺れと本島東海岸と離島では 3 ～ 5m の津波が発生し、沖縄本島南部圏域に甚大な被害が発生したという想定で行われました。

奥武山公園が主会場となり那覇市総合防災訓練と合同開催され、南城市役所をサブ会場に、そして各市町村の会場で住民参加による避難訓練、避難所運営訓練、消防・自衛隊・医療機関等による救助訓練、通信・電力・輸送等のライフライン関係の防災機材・車両の展示などが行われました。また、陸海空 3 自衛隊も離島統合防災訓練として参加し訓練を実施しました (Fig.1)。

開催圏域となった南部地区医師会では南部地区医師会災害医療計画に基づいての初動訓練が行われました (Fig.2)。そして、本会では以下の訓練に参加しましたので報告します (Fig.3)。

1.JMAT 派遣訓練

本会 JMAT は、那覇市の避難所ならびに南城市の避難所訓練の救護所設置運営訓練に派遣さ

れました (Fig.4)。那覇市へ派遣された JMAT は医師会館でブリーフィング後に出発、那覇市の避難所訓練時程に合わせて避難所となったセルラーパークドームに到着後、那覇市保健師と調整して救護所を開設し、避難所内で発生した模擬傷病者の対応を行いました (Fig.5)。

南城市へ派遣された JMAT は医師会館でのブリーフィング後に南部保健所に設置された南部地域医療本部へ参集 (Fig.6)、同本部の調整の下で南城市避難所へ派遣され救護所を設置 (Fig.7)、離島から搬送されてきた傷病者や避難所で発生した傷病者の対応を行いました (Fig.8)。

2.PHV・EV による HOT ステーション開設訓練

奥武山公園セルラーパーク避難所運営訓練の 1 つとして福祉避難所訓練が行われ、在宅酸素療法者 (HOT) に対する PHV・EV (トヨタプリウス PHV、日産リーフ、三菱アイ・ミーブ) による HOT ステーション設置運営訓練を行いました。本会では昨年 11 月に PHV・EV による医療機器への給電の実証実験を行っており、それに基づいた実働訓練となりました^{1) 2)}。なお、実働訓練では使用した PHV・EV が 1 台で酸素濃縮器は酸素流量 3 ℓ で 4 台、5 ℓ で 3 台の作動を確認できました。



Fig.1 奥武山会場



Fig.2 南部地区医師会災害対策本部訓練

平成30年度沖縄県総合防災訓練 JMAT訓練参加者

氏名	職種	医療機関名
洲鎌 盛一	医師	牧港中央病院(浦添市医師会)
大田 明子	看護師	那覇市医師会生活習慣病検診センター
田村 裕貴子	看護師	那覇市医師会生活習慣病検診センター
下地 康尚	ロジ	浦添市医師会事務局
棚原 成秋	ロジ	浦添市医師会事務局
田名 毅	医師	沖縄県医師会 (南部地区災害医療コーディネーター)
松川 格	医師	南部徳洲会病院(南部地区医師会)
園 良平	看護師	南部徳洲会病院
仲本 政剛	ロジ	南部徳洲会病院(南部地区医師会)
宮城 幸太	ロジ	那覇市医師会生活習慣病検診センター
出口 宝	医師	沖縄県医師会 (沖縄県災害医療コーディネーター)

Fig.4 訓練参加者

平成30年度沖縄県総合防災訓練 地区医師会・JMAT訓練時程

南部地区医師会		南城市避難所チーム		那覇市避難所チーム	
時刻	内容	時刻	内容	時刻	内容
9:00	災害対策本部立ち上げ 災害対策本部訓練	11:00	医師会館集合、ブリーフィング 軽食	9:00	医師会館集合、ブリーフィング 軽食
	南城市避難所訓練 合流	11:45	医師会館出発	9:30	医師会館出発
		12:00	南部地域医療本部参集	10:00	那覇市避難所到着(セルラーパーク) ミーティング救護所設置
		12:20	南部地域医療本部出発		医療救護所開始
		13:00	南城市避難所到着(市役所庁舎) ミーティング救護所設置	12:00	終了
		13:15	医療救護所開始		在宅人工呼吸器等対策展示 合流(ライフライン展示エリア)
		14:30	終了 講評・感想 撤収		撤収
			医師会館到着		医師会館到着

Fig.3 医師会参加訓練時程



Fig.5 那覇市避難所救護所訓練 (セルラーパーク)



Fig.6 南部地域医療本部（南部保健所）



Fig.9 那覇市避福祉難所訓練 HOT ステーション（セルラーパーク）



Fig.7 南城市会場



Fig.10 那覇市避福祉難所訓練 HOT ステーションの電源に使用した PHV・EV



Fig.8 南城市避難所救護所訓練（南城市役所庁舎）

この時の消費電力は各々ともに 750W 前後で、それ以上の消費電力になると停止しました (Fig9,10)。

3.PHV・EV による在宅人工呼吸器等対策展示

奥武山公園のびのび広場で行われたライフライン協定機関の展示・体験において、在宅人工呼吸器対応モデルとして、人工呼吸器、加湿器、酸素濃縮機、吸引器、家庭用エアコン（100V 仕様）に対する PHV・EV（トヨタプリウス PHV、日産 e-NV200、三菱アウトランダー PHEV）による電源供給展示を行いました。5 × 5m テントを居室として 1 台の PHV・

EV でこれらの医療機器ならびにエアコンを稼働させました。こちらも 1 台では合計消費電力が 800W を超えると停止したため、合計消費電力が 800W を超えないようにエアコンを調整することで安定して作動しました。なお、多くの展示用テントの中でも唯一冷房が効いており、見学に訪れた市民の方々に好評でした (Fig11,12)。

所 感

12 時過ぎから那覇近辺をゲリラ豪雨が襲いました。その影響で奥武山会場における一部訓練が中止となったのですが、主催者である県から正式決定が発表される前に「訓練中止」の情報が錯綜して各関係団体に混乱が発生しました。今回は、奥武山公園では沖縄県総合防災訓練（以下、県防災）と那覇市総合防災訓練（以下、那覇防災）が合同開催となっていました。救出救助、道路啓開訓練（県防災）の会場であるグラウンドと、ライフライン展示・体験（那覇防災）の会場である広場は集中豪雨により一部浸水、泥状化しました (Fig1-②③)。那覇市や現場の関係者らは、訓練で多くの大型車輛と参加者が入ることで現状復帰が大変になると判断されたようです。また、ヘリコプターの飛行



Fig.11 PHV・EV による在宅人工呼吸器等対策展示（エアコン、人工呼吸器、加湿器、酸素濃縮機、吸引ポンプを1台の車輛で給電）



Fig.12 在宅人工呼吸器等対策展示の電源に使用した PHV・EV

も一時ストップされて奥武山 SCU 訓練運用（県防災）が出来ず、そこからの傷病者受入れのためセルラードームに設営された那覇市立病院の受入れ訓練（那覇防災）も中止になりました。那覇市は中止を決定しましたが、この時点で県は対応を正式決定されておらず、県防災全ての訓練が中止かのような情報が広がっていました。そして、混乱の中、本訓練の最高責任者と決定権者である本部長（副知事）が奥武山会場本部に到着して、県関係部局を集めて訓練中止についての協議があり、その結果をもって関係団体が集められて一部訓練中止の決定が説明されました（巻頭写真）。

まさに、訓練で想定外の事案が発生して、訓練ではなく実際に発生した事案に対する対応となりました。この経緯を間近に見られたことは大変良い経験になりました。実災害時の組織としての指揮・調整力と意思決定、そして情報管理の重要性を再認識しました。

また、本県では沖縄県災害医療マニュアルにおいては県災害医療本部のもとに北部、中部、南部、宮古、八重山の保健所長を本部長として地域医療本部が設置されることになっています。本県最大の人口を抱える那覇市的那覇保健所は南部地域医療本部のもとに位置づけられています。また、那覇市は中核市であり那覇保健所は

那覇市の一機関であるため那覇市のもとでの動きを取る事になります。地域災害医療コーディネーターも配置されていません。大規模な実災害時には情報共有、指揮調整など様々な場面で問題が生ずると考えられます。やはり、他地域医療本部と同列に那覇市地域医療本部を設置して県が地域災害医療コーディネーターを配置して県医療本部と円滑で密な連携出来る体制が望まれます。さらに、理想的には全ての市町村の医療圏と行政圏が一致することも望まれます³⁾。

この原稿を書いている時に最大震度7の北海道胆振東部地震が発生しました。また、最近、琉球大学や名古屋大学の研究グループが本島南沖にプレート間の「固着域」があることを発見し、将来的には巨大地震や津波が起きる可能性があるとの報道がありました。

各地区医師会におかれましては、これまでも災害医療に取り組んで頂いてきましたが、今後も特に開催圏域の年には地区医師会災害医療計画に基づいて災害対策本部訓練を実施して頂き、美ら島レスキュー、県防災に参加される機会を活用して頂きますようお願い致します。

【参加・協力企業】

ネットヨタ沖縄株式会社、琉球日産自動車株式会社、琉球三菱自動車販売株式会社、アイティーアイ株式会社沖縄支店、(株)沖縄三和メディカル、株式会社沖縄メディコ、株式会社オカノ、株式会社小池メディカル沖縄営業所、帝人在宅医療株式会社、南西医療器株式会社、フクダライフテック九州(株)沖縄営業所、ニプロ株式会社沖縄営業所、パナソニックコンシューマーマーケティング沖縄株式会社（順不同）

参考文献

- 1) 出口 宝: PHV・EV 車輛による医療機器への電源供給に係る実証実験報告, 沖縄医報 2018 ;54:321-324.
- 2) 出口 宝, 田名 毅, 玉城信光他: PHV・EV による医療機器への電源供給 - 災害時における非常用電源としての実用性の検証 -, 日本医師会雑誌 2018;147:543-549.
- 3) 出口 宝: 美ら島レスキュー 2018 報告, 沖縄医報 2018;P7-8 本誌 Vol.54, 765-769.

印象記



常任理事 田名 毅

南城市庁舎における災害救護訓練に参加して

出口先生が沖縄県総合防災実働訓練のメイン会場の奥武山運動公園で前述の報告にあったような経験をされている間に、私は南部圏域の訓練会場である南城市庁舎における災害救護訓練に参加しました。当日は医療班として現場に向かいました。医師は私と南部徳洲会病院の松川格先生、看護師は南部徳洲会病院の圓良平さん、事務（ロジ）は南部徳洲会病院の仲本政剛さん、那覇市医師会事務局の宮城幸太さんの合計5人のチーム構成でした。

会場に到着するとすぐに、南城市の保健関係のスタッフが傷病者が多数発生しているので、急ぎ仮設診療所を立ち上げて下さいと指示がありました。南城市の新庁舎では、広い多目的ホールが与えられたので、そこに役所の方と我々5人で受け付け用のデスク、椅子（待合）、診察の机、個人用マットを用いたベットの配置を急ぎ行い、傷病者の搬入を待ちました。

実際開始すると軽傷者（緑色タグ）から、中等度傷病者（黄色タグ）の方々が次々と診察を希望して搬入されました。受付二人、医師二人、看護師一人で短時間で40～50名ほどの患者さんに対応するのは、かなり大変な経験でした。模擬傷病者は南城市の地域の方々をお願いしており、保健スタッフの指導のもと大変上手に演じて下さっていた分、傷病者としてリアリティーがあり、充実した訓練になりました。外国人傷病者も3人ほどおり、通訳の方と一緒に搬入されていました。その際の対応も実際の現場を思わせるやり取りでしたので、いい経験になりました。

5人で一通り対応が済みかけた1時間ほどしてから、南城市の保健スタッフの方々が最後の収拾に向けて手伝うような形で声かけしてくれたので、その有難さを感じました。私もここまでの本格的な実働訓練とは思っていなかったので、汗はかきましたが終了後は充実感を持ってました。

終了後、沖縄県立南部保健所の方々（当日外回りをしながら、訓練の全体を見ていました）も交えて、南城市の保健スタッフの方々と意見交換しました。医療班用の紙カルテが診療所にあったのですが、これを搬入前に保健師をはじめとする他の医療スタッフが関わった場合は、その内容を記録して診療所にもってくる方法がいいのではなど、情報共有、診療録保管のあり方についての意見が出ていました。私は訓練においても医療班5人の対応だけでなく、仮設診療所に連れてくる保健師の方々との連携のあり方まで実践できるとより良いのではと話しました。南部保健所の方々からは以下のような意見を後日いただきました。箇条書きで紹介します。

- ・南城市は初めての医療救護に関する訓練だったにも関わらず、地元の方々の傷病者役の手配から当日の保健師の動きまでしっかり出来ていた。
- ・地域の自助防災組織がしっかり動いていることは南城市の強み。
- ・今回のような医師会、市町村、県や関連団体と連携した訓練が他市町村でも広がっていくために、保健所で何が出来るか考えていきたい。

とのことでした。

実際に災害が起きた際には、それぞれの市町村と保健所、地区医師会の速やかな関係構築、連携が重要であることは、これまでの震災支援（東日本大震災、熊本大地震）で経験してきており、地域医療コーディネーターを明記した災害対策マニュアルも沖縄県、南城市、それぞれ既に作成しています。今は「日本全国が災害の活動期にある」という考え方を先日、災害ボランティアに長年関わっている方から聞きました。日頃より「備えよ常に」の精神で各地域で意義ある災害訓練が出来るように、沖縄県医師会も地区医師会の先生方と協力して取り組んでいきたいと考えています。



お知らせ

会員にかかる弔事に関する医師会への連絡について（お願い）

本会では、会員および会員の親族（配偶者、直系尊属・卑属一親等）が亡くなられた場合は、沖縄県医師会表彰弔慰規則に基づいて、弔電、香典および供花を供すると共に、日刊紙に弔慰広告を掲載し弔意を表することになっております。

会員に関する訃報の連絡を受けた場合は、地区医師会、出身大学同窓会等と連絡を取って規則に沿って対応しておりますが、日曜・祝祭日等に当該会員やご家族からの連絡がなく、本会並びに地区医師会等からの弔意を表せないことがあります。

本会の緊急連絡体制については、平日は本会事務局が対応し、日曜・祝祭日については、緊急電話で受付して担当職員へ取り次ぐことにしておりますので、ご連絡下さいますようお願い申し上げます。

○平日連絡先：沖縄県医師会事務局

TEL 098-888-0087

○日曜・祝祭日連絡先：090-6861-1855

○担当者 経理課：平木怜子 池田公江

九州医師会連合会第 372 回常任委員会



会長 安里 哲好

去る 8 月 25 日（土）、城山ホテル鹿児島においてみだし常任委員会が開催されたので、会議の概要について報告する。

当日は、はじめに前九州医師会連合会長（松田福岡県医師会長）並びに、九州医師会連合会長（池田鹿児島県医師会長）より挨拶が述べられた。

また、議案説明のため、福岡の瀬戸委員（平成 29 年度決算）、鹿児島の野村委員（平成 30 年度事業計画）、林委員（平成 30 年予算）にご参加いただいている旨の報告があり、早速議事に入った。

報 告

1. 九州医師会連合会事務引継（8 月 10 日（金）福岡市）について（鹿児島）

去る 10 日（金）、福岡県医師会において、監事の志田正典先生（佐賀）、織部和宏先生（大分）立会の下、福岡、鹿児島の役職員が参加し事務引継を行った。

2. 九州医師会連合会第 115 回定例委員総会について（鹿児島）

当常任委員会終了後、標記定例委員総会を開催する。

3. 日本医師会会内委員会委員について（鹿児島）

平成 30 年期の日本医師会会内委員会委員について、各県から希望委員会の照会を行ったあと、九州医師会連合会の会長（池田琢哉鹿児島県医師会長）、副会長（池田秀夫佐賀県医師会長）で調整の上、別紙のとおり日医へ推薦した。

議 事

第 1 号議案 平成 29 年度九州医師会連合会歳入歳出決算に関する件（福岡県・瀬戸委員）

歳入合計	52,865,784 円
歳出合計	45,612,580 円
差引残高	7,253,204 円

第 2 号議案 平成 30 年度九州医師会連合会事業計画に関する件（鹿児島県・野村委員）

第 3 号議案 平成 30 年度九州医師会連合会負担金賦課に関する件（鹿児島県・林委員）

前年度と同額 1,500 円 * 研修医は無料

第 4 号議案 平成 30 年度九州医師会連合会歳入歳出予算に関する件（鹿児島県・林委員）

予算額：歳入合計	52,836,650 円
歳出合計	52,836,650 円

第 5 号議案 平成 30 年度九州医師会連合会監事（2 名）の選定に関する件（鹿児島県・池田会長）

宮崎県：山村 善教 委員
沖縄県：稲田 隆司 委員

第 6 号議案 平成 30 年度第 118 回九州医師会医学会事業計画に関する件（鹿児島県・野村委員）

第 7 号議案 平成 30 年度第 118 回九州医師会医学会会費賦課に関する件（鹿児島県・林委員）

前年度同額 2,500 円 * 研修医は無料

第8号議案 次回119回（2019年度）九州医師会医学会開催担当県の決定並びに次々回第120回（2020年度）同学会開催担当県の内定に関する件（鹿児島県・池田会長）

第119回（平成31年度）佐賀県（決定）

第120回（平成32年度）宮崎県（内定）

上記第1号議案から第7号議案について、各担当委員より提案内容について説明があり協議の結果、各議案とも原案どおり承認され、当常任委員会に引き続き開催される第115回定例委員総会へ上程することになった。

また、第8号議案、九州医学会開催担当県については、九州医師会連合会（九州医学会）施行細則（開催県順序）に基づき、次回第119回九州医学会は佐賀県に決定し、次々回第120回九州医学会は宮崎県に内定した。

協議事項

1) 平成30年月豪雨に係る見舞金について

（鹿児島）

本年7月に西日本を中心に発生した豪雨災害に際し、特に被害の大きい、岡山県、広島県、愛媛県に見舞金をお送りすることに決定した。

お知らせ

沖縄県医師会会費減免制度について（ご案内）

本会では高齢・疾病・出産育児等の事由による会費減免制度を設けております。
下記減免手続き等、詳細については本会事務局までお問い合わせください。

減免事由	疾 病	出産・育児	研修医	高 齢
対象者	傷病等により医療機関を1か月以上にわたって閉鎖若しくは診療に従事しない会員	出産された（これから出産予定の）女性会員で、出産・育児休業取得者（日医は休業取得・未取得は問わない）	初期研修医	年齢が満77歳に到達した会員
減免期間	閉鎖若しくは診療に従事しなくなった翌月から再開若しくは再従事するに至った月まで。その期間に応じ、月割計算の方法によって算出した額が免除となる	出産した日の属する年度の翌年度1年間 例：平成29年4月1日に出産した場合→平成30年度が減免	医師法に基づく研修医の期間	年齢が満77歳に到達した翌月から免除。但し、2名以上の医師がいる施設においては、1名はA会員の会費を納入する
申 請	必 要	必 要	必 要	不 要
添付書類	診断書	母子手帳の写	不 要	不 要

※本減免制度の利用を希望する場合は、当該年度の1月末までに申請ください。

【問合せ先】 沖縄県医師会 経理課 TEL：098-888-0087

九州医師会連合会第115回定例委員総会



理事 白井 和美



去る8月25日(土)、城山ホテル鹿児島にて標記定例委員総会が開催され、九州医師会連合会の平成29年度決算、平成30年度事業計画並びに予算等が審議され承認されたので、会議の概要を報告する。

はじめに、司会の黒木康文委員(鹿児島県)より開会が宣され、前年度九州医師会連合会担当県の福岡県医師会松田峻一良会長より、平成29年度の九州医師会連合会諸事業への協力に対するお礼が述べられた後、池田琢哉九州医師会連合会長より挨拶、横倉義武日本医師会長、平川俊夫日医常任理事、羽生田俊参議院議員、自見はなこ参議院議員より来賓祝辞が概ね次のとおり述べられた。

挨拶

松田峻一良九州医師会連合会会長

本日は、九州医師会連合会第115回定例委員総会を開催したところ、大変ご多忙の中、横

倉日本医師会会長、平川日本医師会常任理事、羽生田参議院議員、自見はなこ参議院議員をはじめ、九州各県から多くの先生方のご出席を頂き厚くお礼申し上げます。

去る7月7日に開催された九州医師会連合会第371回常任理事会で、今年度の九州医師会連合会会長に選任され、この1年間鹿児島県医師会が担当させて頂く事になった。

只今、昨年度担当された福岡県医師会松田会長からご挨拶があったが、福岡県医師会の役職員の皆様方には本当にお世話になった。厚くお礼申し上げます。

鹿児島県医師会としては、ご指導・ご協力頂きながら、また副会長に選任された佐賀県医師会池田秀夫会長と相談しながら遺漏のない運営を心がけて行きたいと考えているので宜しくお願い申し上げます。

西日本豪雨災害から間もなく2ヶ月が経とうとしているが、まだまだ復興にはほど遠い状況

で、猛暑の中、多くの方々が不自由な暮らしを余儀なくされている。また、地域の中核病院が被災し、厳しい医療環境に置かれているところである。平成最悪の水害と言われ、200 名を超える方々が犠牲になられた。改めてご冥福をお祈り致す。被災された方々の感染症や熱中症が心配され、これ以上関連死を増やさないためにも、いつでも支援できる態勢を整えて行きたいと考えている。

また、日本医師会では、今回の豪雨による被災医療機関及び地元医師会を支援するため、募金を全国医師会及び会員にお願いしている。募金期間は 8 月 31 日までとなっているので宜しくお願い申し上げます。

我々九州各県医師会は、それぞれ災害時の救急医療体制に取り組んでいるが、九医連としても災害時の広域連携を一刻も早く構築しなければならないと思った次第である。各県医師会の積極的な取り組みをお願いしたい。

日医では 4 期当選を果された横倉会長の下、新たな執行部が精力的に動き出し、九州各県でも新たな体制で諸課題に取り組んでおられる。超高齢社会での少子化、人口減という難しい課題にどう対応するか、地域医療を担う我々医師会が、直向に取り組まなければならない。

本日の定例委員総会は、本年度の九州医師会連合会並びに九州医師会医学会事業計画・予算について決定をいただくことになっている。慎重にご審議の上ご承認賜りますようお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

来賓祝辞

横倉義武日本医師会長

池田会長からのご挨拶にもあった様に、この度、西日本を中心とした集中豪雨があった。犠牲になられた方々には心からご冥福をお祈り致すと共に、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

広島県医師会、岡山県医師会、愛媛県医師会から JMAT の派遣依頼があり、福岡県医師

会ははじめ、九州各県からも多くの先生方がご支援に入っていただいた。心から感謝する次第である。

特に岡山県倉敷市真備町の多くの診療所が被害に遭い、医療機能が途絶する状況であったが、JMAT の先生方のご尽力で機能が回復し、今月のお盆過ぎに全ての JMAT の活動がほぼ終了した。

改めて、本日の定例委員総会に日本医師会から私と平川常任理事がお招きいただき心から感謝申し上げます。

先程福岡県医師会松田会長からお話がありましたように、6 月 22 日、23 日に開催された日本医師会定例代議員会において、4 期目となる日本医師会会長に選任いただいた。新しい執行部に九州医師会連合会から常任理事として平川俊夫先生、理事として鹿児島県医師会池田琢哉会長並びに沖縄県医師会安里哲好会長、代議員会副議長に佐賀県医師会池田秀夫会長に参画いただいている。心から感謝申し上げますと共に非常に力強く感じている。

先般、骨太の方針 2018 及び未来投資戦略 2018 が閣議決定されたが、地域包括ケアシステムの構築を目指して、切れ目のない医療・介護の連携と充実が益々期待されているところである。日本医師会としても地域医療に責任を持つ立場から、全ての世代が活力を持ち続けられるよう人生 100 年時代を見据えた医療のあり方を提言していかなければならないと思う。

九州医師会の先生方には、しっかりと地域住民の健康を守るという立場から頑張ってもらいたい。心から祈念しご挨拶とさせていただきます。

＜中央情勢報告＞

1. 医師法及び医療法の一部を改正する法律案のポイント

7 月に医師法及び医療法の一部を改正する法律案が閣議決定された。当初、医師法と医療法の改正の中では、保険医指定の資格をもう少し厳密にすることはどうかとの意見もあったが、余り

にも国家権力に権限を持たせすぎると、医師のフリーダムを侵すことになるということで、医師会の中でも議論をし、次の様な改正内容に落ち着いたところである。(図1)

- ①医師少数区域等で勤務した医師の評価制度創設
- ②都道府県における医師確保対策の実施体制整備
- ③医師養成過程を通じた医師確保対策の実施
- ④地域での外来医療機能の不足・偏在等への対応
- ⑤地域医療構想推進のための都道府県知事権限追加

都道府県における医師確保対策の実施体制整備については、都道府県知事に相当大きな権限を与えることになる。都道府県知事のいろいろな施策の決定に関しては、地域医療対策協議会で必ず議論し、その結果で行うことになっており、この地域医療対策協議会は、九州各県とも県医師会長が会長を務めているので、しっかり

と医師会の意見を反映させていく事が重要になると思う。ある意味では、都道府県医師会長の権限が非常に強くなったとも言えるので、各県医師会長の先生方には是非宜しくお願ひしたいと思う。

医師養成過程を通じた医師確保対策の実施については、都道府県知事が大学に対して、地域医療対策協議会の協議を経たうえで、地域枠又は地元出身者枠の創設又は増加を要請することができるようになった。

専門医研修については、日本専門医機構等に対する、専門医研修実施に必要な措置実施に関する厚生労働大臣の要請規定、意見聴取規定等が追加された。日本専門医機構は、6月に新しい運営体制が決まった。日本医師会から、今村聡副会長に副理事長として就任していただいている。専門医制度については様々な批判があるが、批判に耐えうるような機構のあり方について議論いただいている。

地域での外来医療機能の不足・偏在等への対応については、昔は、それぞれの地区医師会の

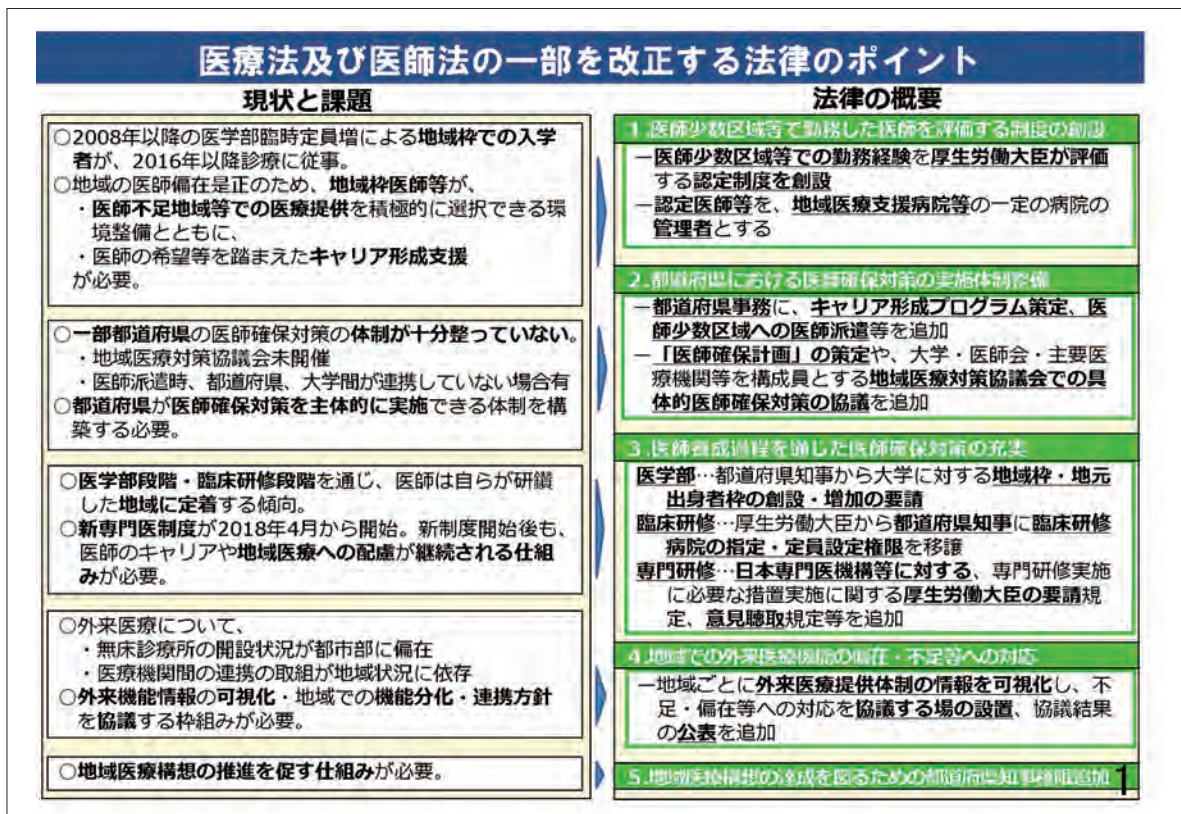


図1

中に開業等の相談委員会があり、開業する場合、近くに医療機関が集中することがないようにしていたが、公正取引委員会から助言があり、それが出来なくなった。その結果、都心の駅前に似たようなクリニックが20件、30件集中するというような事が起きており、やはり調整が必要ということで、不足・偏在等への対応を協議する場を設置することが今回の法律の中に書き込まれた。

2. 医師の働き方改革について

基本的には、「地域医療の継続性」と「医師の健康への配慮」の両立が重要である。これについて、厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」において検討され、方向性が出された。

○検討会取りまとめ：「医療従事者の学術団体、病院団体、関係学会などにリーダーシップを期待」

⇒日本医師会では、検討会において「医療界の主体的な組織による具体案の作成」を提案。

日本医師会から各団体に対し、医師の働き方改革について、医療界として具体的な提言をまとめるための会議設置を呼びかけ、皆様から賛同いただき、4月に日本医師会「医師の働き方検討会議」を設置した。

○医師の働き方検討会議「医師の働き方改革に関する意見書」

「医師の健康確保対策」

・今取り組むべき健康管理

①労働時間の把握、②適切な産業医の配置と職務遂行、③衛生委員会の活用徹底、④健康診断に関する事項の取り組み徹底…等

・今後の健康管理

①役割分担の明確化、②多面的な健康確保策、③医師自身の健康管理、④宿日直の健康への影響と管理…等

「今後の進め方」

・具体的検討項目

①健康確保策、②自己研鑽、③宿日直、④院外オンコール待機、⑤休日、勤務間インターバル、連続勤務時間…等、どの項目も独自の制度が必要。

・現行の労働法制で規定するのが妥当か、勤務医の労働法制を別途構築するのが妥当か検討

・医師の健康確保策の定着を前提に前倒し施行が可能か検討。

・施行後には不断の見直しが必要

「まとめ」

現行法令の枠内における「特例の在り方」だけでなく、必要であれば、その枠組みには必ずしも拘らない議論が必要。

長時間労働の是正を進めるのは大前提として、勤務医の労働法制の構築も視野に入れ、医師の働き方に合ったより良い制度を構築することが必要。

○都道府県・郡市区医師会が行うこと

・初期救急、休日・夜間診療体制の再構築

・かかりつけ医と病診連携の普及促進

病院には病院に求められる医療に集中してもらえよう、相談できる身近な医師をもってもらうことが必要。

大規模の病院と中小病院、診療所の役割を明確化していかなければならない。かかりつけ医と病診連携の普及については、かかりつけ医の先生方が中心となっていただく必要があると思うので、それぞれの県医師会でもかかりつけ医の機能向上に取り組んでいただきたい。

・予防・健康増進の活動

明るい・元気のある長寿社会を作っていくためには、かかりつけ医の先生方の予防・健康増進活動への積極的関与が重要となってくる。

・地域住民への啓発

皆保険の下で、いつでもどこでも医療にかかれるという良い面があるが、コンビニ受診に繋がっているというところもあるので、地域住民へ医療のかかり方についてしっかりと理解を求めているかなければならない。

3. 控除対象外消費税の補填について

2014年度の診療報酬改定で、消費税対応分として約2,200億円の財源があり、診療所に約600億円の全額を初・再診料に配分、病院は約1,600億円を初・再診料に上乗せし、残った財源を入院料に配分することになっていたが、入院基本料の配分に間違いがあり補填不足があったことが明らかになった。厚生労働省へこういう間違いが起きないように抗議し、対策を講じるよう強く申し入れをしている。

来年10月に消費税が10%に引き上げられる。しっかりとした消費税の取り組みをしておかなければならない。現在、医療界の統一見解を作るべく、三師会と四病院団体協議会とで話し合いをしている。基本的に診療報酬で補填し、大

きな設備投資等で、補填不足が出る場合は、個別に対応する仕組みを作り上げる方向で取りまとめを行っている。(図2)

平川俊夫日本医師会常任理事

本日当総会にお招きいただき、ご挨拶の機会を設けて頂きました池田琢哉九州医師会連合会長はじめ九州医師会連合会役員の先生方のご厚情に厚く御礼申し上げます。去る6月23日に開催された第142回日本医師会定例代議員会では皆様方の特段のお力添えを頂き、日本医師会常任理事に当選させて頂いた。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。私は日本医師会常任理事立候補にあたり、子育て世代、子育て家庭を孤立させず、温かく支え見守る医療・福祉の連携体制を構築すること、地域包括ケアシステムの仕組みを高齢者のみならず、周産期医療や障害者医療を含めた全世代を包み込む連携ネットワークとして構築発展していくこと、その必要性を所信に示し申しあげた。我が国が世界に類を見ない少子高齢化の荒波を突き進む中で、子子孫孫に至るまで豊かに支える国造りをするためには、高齢化を加速する出生率の

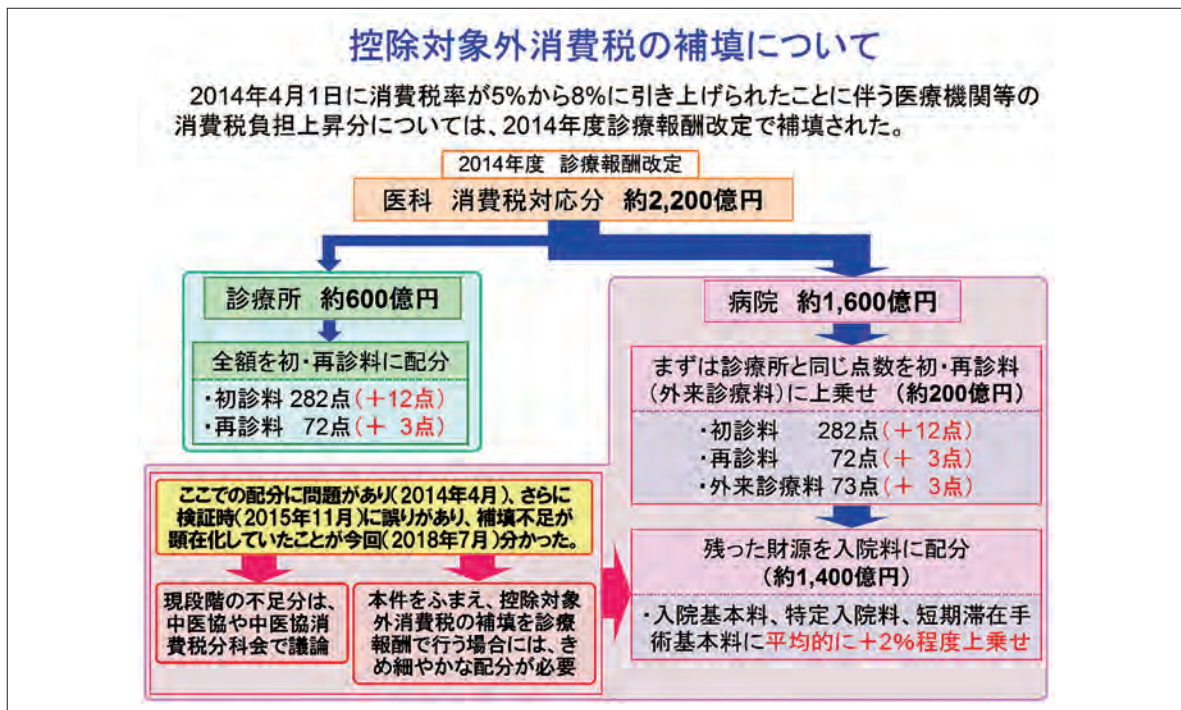


図2

低下、即ち少子化の克服が喫緊の課題である。少子化の要因としては、晩婚化、生涯未婚率の増加等が挙げられるが、その背景には経済雇用環境の変化等による国民の社会不安があると思う。安心して産み育てられる国民の期待と安心を確保するためには、社会的共通資本として医療が果たすべき役割は大きなものがあると考えている。横倉会長からは主担当として周産期乳幼児保健、先端医療、医事法制的担当を仰せつかった。周産期乳幼児保健については、少子化の克服に資するためにも、安心して妊娠・出産し、ご夫婦で子育てを行い、子どもが健やかに成長していく中で、次の世代を生み出す健康な成人に育っていくことが保障される社会が形成されることが重要である。そのために胎児期から次世代のこどもを育てる成人に至るための医療保険を切れ目なく支援する成育基本法の制定に向けた取り組みが重要である。本日で臨席の羽生田参議院議員、自見参議院議員のお力をお借りしながら、制定に向けた取り組みを進めていきたい。先端医療においては、標的とする遺伝子の改編効率を向上させるために、ゲノム編集技術という新たな手法が開発されており、それがヒト受精卵にも適用されたことにより、非常に倫理的な懸念を含む問題であることから、学術的な進歩の視点のみならず、生命倫理、医療の安全といった面からも注視していきたい。医事法制については、医療基本法の制定が重要な課題である。医療者と患者の法的な関係性については、日本医師会会内で検討が続けられており、社会の中での患者の権利等に関する様々な意見にも配慮しながら、医療とは医療提供者と患者の間の信頼関係によって成り立つよう活動するものである。これについても羽生田先生、自見先生のご指導を賜りながら、取り組みを加速させたい。

羽生田 俊 参議院議員

色々な問題点についてこれを法律にしていることが我々に課せられた使命である。成育基

本法、医療基本法そして今回問題になっている医師の働き方について、5年間の猶予の中でどのように法律を作るかということになるため、2、3日前の鈴木医務技官の談話がメディアファクスに載っているが、新しい法律も視野に入れながら検討すると述べているように、しっかりと議論してまいりたい。また、医師の働き方改革のPTにおいては、来年3月に結論をだすべく現在様々なヒヤリング等をおこなっているところであるため、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

自見はなこ 参議院議員

羽生田先生が仰っていた通り、目下の課題は医師の働き方並びに消費税問題である。また、昨年沖縄県医師会から外国人訪日観光客の問題について取り組んでほしいとの要望を受け、厚労省と官公庁を伴って視察を行い、自民党内に対策ワーキンググループを立ち上げることが出来た。党内での了承を得て、内閣官房健康医療政策室がワーキンググループを立ち上げると共に、政府も足並みを揃えて対策本部を立ち上げて頂き、党でまとめた提言がそのまま総理が同席する会議の中で国の方針としてすることが出来た。その際の事務局長という役目を経験させて頂いた。

これも沖縄県医師会が地道なアンケート調査の実施や、会員の先生方のご相談にしっかり県医師会が対応したことにより、これを拾い上げさせて頂くことが出来た。この課題を勉強するにあたり、これは沖縄県医師会だけの課題では無く全国での課題であり、それぞれの県で様々な取り組みを行っておられたことが改めて分かった。対策の結果としては、様々な段階はあるが、2020年のオリ・パラには何とか間に合うように全国五つのモデル地域を決め、医療提供者側、ホテル業側等の対策協議会を立ち上げると共に、医療通訳、医療コーディネーターにおける多言語対応に対する予算配分も検討される。訪日外国人観光客の問題について

は、在留外国人の医療費の適正化、保険証の使用問題も何とかしてほしいとの声を頂いており、国会が閉会する前から橋本岳先生を座長としてワーキンググループを立ち上げさせて頂いている。単純外国人労働者の受け入れ拡大についても今後絡んでくると思われる。いずれにしても地域地域で先生方が地域社会を守っているということをこの2年間感じているところである。引き続き先生方のお役に立てるように頑張りたい。

報告・議事

座長に池田九州医師会連合会会長が選出され、報告、議事が進められた。報告(1)の第372回常任委員会については池田会長から、(2)の平成29年度九州医師会連合会庶務並びに事業報告については、昨年度担当した福岡県医師会寺澤委員から資料に基づいて報告があった。

引き続き行われた議事については、次の8議案が上程され、それぞれ各担当委員より提案理由の説明があり、協議した結果、全議案とも全会一致で原案どおり承認された。

第1号議案 平成29年度九州医師会連合会歳入歳出決算に関する件

決算報告の後、平成29年度の監事の志田正典先生(佐賀県医師会専務理事)から平成29年度九州医師会連合会歳入歳出決算について、会計監査を行ったところ、帳簿並びに係書類は適正妥当であったと会計監査報告があった。

歳入合計 52,865,784 円

歳出合計 45,612,580 円

差引残高 7,253,204 円

第2号議案 平成30年度九州医師会連合会事業計画に関する件

第3号議案 平成30年度九州医師会連合会負担金賦課に関する件

会員一人 年額 1,500 円とする。

(但し、研修医については減免により無料とする。)

第4号議案 平成30年度九州医師会連合会歳入歳出予算に関する件

歳入歳出予算額 44,745,704

第5号議案 平成30年度九州医師会連合会監事(2名)の選定に関する件

宮崎県の山村善教委員、沖縄県の稲田隆司委員が選出された。

第6号議案 平成30年度第118回九州医師会医学会事業計画に関する件

平成30年11月16日(金)前日諸会議、17日(土)合同協議会、総会・医学会、18日(日)分科会、記念行事が、城山ホテル鹿児島をメイン会場に開催することが決定された。

第7号議案 平成30年度第118回九州医師会医学会会費賦課に関する件

会員一人 年額 2,500 円とする。

(但し、研修医については減免により無料とする。)

第8号議案 2019年度(平成31年度)九州医師会連合会負担金・九州医師会医学会会費に関する件

鹿児島県医師会林委員から、平成30年度の九州医師会連合会負担金・九州医師会医学会会費については、先程例年どおりの金額でご承認いただいたところであるが、近年、救急災害担当理事連絡協議会、感染症対策担当理事連絡協議会、医療事故調査制度担当理事連絡協議会等、各種協議会以外の会議が増えてきたことにより、かなりの費用が掛かり九医連の財源が逼迫していることから、去る4月7日に開催された第370回九医連常任委員会において、福岡県から、2019年度から九州医師会連合会負担金1,500円を500円上げて2,000円に、九州医師会医学会会費2,500円を500円下げて2,000円とするものの提案があり了承された。負担金会費総額は従来と変わらず4,000円となる旨説明があり協議の結果、次のとおり決定した。

① 2019年度九州医師会連合会負担金

会員一人年額 2,000 円(現在 1,500 円)

② 2019年度九州医師会医学会会費

会員一人年額 2,000 円(現在 2,500 円)

その他

松田福岡県医師会長より、日本医師会代議員会議長から各代議員宛「代議員会における代表質問・個人質問に関するアンケート」が届いていることについて、意見を伺いたいとの提案があった。

これを受けて意見交換した結果、アンケートについてはそれぞれ個人で判断し回答することとなった。

なお、主な意見は下記のとおり。

- 代議員会は活発に行われることが良いのであって、可能な限り全員が発言すれば良い。ただ、最近は質問も予想通り、答弁も予想通りであり退屈である。
- 今後期待するところはある。現在ブロック代表質問は常任委員会にて決定しているが、九

州ブロックとして何が最も重要と考えているかきちんと詰めて頂きたい。個人質問については実の無い質問があることから調整が必要かと思う。時間の節約から考えると同じ質問については一括答弁でよいと思う。

- 今回のアンケートについては、議長選挙における公約として掲げておられた。九州ブロックでは、常任委員会にて決めているが、他のブロックでは各県持ち回り対応しているところもあるようである。なお、ひな壇には常任理事だけでは無く、理事も席を設け発言させるという考えもあるようである。現在約50%の代議員が回答されており、その内の6割が代表・個人質問の枠を撤廃しても良いとする考えを示している。

印象記

理事 白井 和美

8月25日、標記委員総会が開催されたので、報告する。来賓として出席された横倉日本医師会長は、医師法の改正や、医師の働き方改革の進め方、特に地域医療を守りながら如何に医師の健康を守るかを、先進的取り組みをしている地域を参考に考えてゆきたい。また、控除対象外消費税問題に関しても、今後の更なる消費税上昇にも対応できるシステムを考える必要について言及された。また、平川日医常任理事からは、平成30年7月豪雨での災害時に行われた、各県からの援助に対するお礼も述べられた。更に、来賓の2名の参議院議員の先生方からもご自身のこれまでの活動に関するご報告があった。

その後行われた会議の主な内容は、総会に先立ち行われた九医連第372回常任委員会で承認された、九医連関連の平成29年度決算、並びに平成30年度事業計画、負担金賦課等についての議案が改めて委員総会に提出され、特に意義なく、全議案が無事承認された。主な変更点は、平成31年度からの会費負担に関して、従来の九医連負担金1,500円を2,000円に値上げするが、九州医学会会費は2,500円から2,000円へと値下げし総負担額はこれまで通りとする、という点である。ご承知の方も多いと思うが、最近、救急・災害医療担当理事連絡協議会や、感染症担当理事連絡協議会、等の会議が多く開催される関係で九医連の財政状況が悪化する反面、九州医学会では、順調な運営がなされているため、この様な変更が提示された。会員の皆様のご理解をお願いしたい。